

# ヒグリア

発行 福島工業高等専門学校  
いわき市平上荒川字長尾 30  
編集 図書委員会  
平成 12 年 7 月 17 日

## 巻頭言

6月始めの朝日新聞「天声人語」欄は、英国の名門ケンブリッジ大学英文学コースの必須試験科目からシェークスピアがはずされそうなことを論じた。今から400年も前の時代の作品よりも近現代の作家のものを勉強させたいし、インターネットに夢中の世代にはふさわしくないとの理由だそうだ。その反論も紹介し、彼が扱った問題は人間にとり永遠の問題であり、インターネット時代にふさわしいとか、彼は人々に柔軟さ、繊細さ、注意力、感受性を教えてくれるというものであった。

最終結論は年内に出されるが、大半の大学で彼は特別扱いされていないそうだ。いずれにしても、シェークスピアは、同時代に出版された聖書の『欽定訳』と共に、近代英語の確立に大きく貢献したことは広く認められている。その作品は後の文学にも多大な影響を及ぼしているし、今も人々の日常的な話の端々に登場人物

のせりふが出て来ると言われている。

中学生の頃に読んだ『ベニスの商人』、『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』等による胸の高鳴りは今も忘れがたい思いがあり、その後読んだ漱石よりもずっと魅力的だった。シェークスピアは実に様々な人物の心を知り尽くしている。しかも悲劇的な結末をもたらす作品でも、人生のはかなさだけでなく深さと崇高さ、そして真実の喜びを見せてくれる。

どの作品でも読み出したら、きっと夏の暑さを忘れさせてくれるほどおもしろいことは確かなので、学生諸君に一読を勧める。

渡辺洋太郎（一般教科）



## 目次

巻頭言（渡辺洋太郎）	-1	世界図書館の時代に（阿部妙子）	-10
新任の先生方が薦めるこの一冊	-2	図書館から	-11
学生による私が薦めるこの一冊	-3	お知らせ	-14

新任の先生方による  
私の薦めるこの一冊

— 私の薦めるこの一冊 —  
機械工学科 小山真二郎

題名は“この一冊”とありますが、“この数冊”とさせていただきます、字数の許される限り、いくつかの参考書・本を紹介させていただきますと思います。

私の専門は機械材料学ですが、対象が限られてしまいますので、授業を担当している情報処理についてふれたいと思います。コンピューターの基礎知識について習得することは当然のことですが、特に技術系の学生であるならば、プログラミング言語を覚えていただきたいと思います。言語の種類は何でもいいとは思いますが、もしも“C言語”を勉強されるならば、次の参考書を推薦します。「改訂新C言語入門ビギナー編、シニア編」(林晴比古著、ソフトバンク)。

「1日で解るC言語」(桑原恒夫著、共立出版)。前書は、私が学生時代から使用しているものです。現在でも研究用のツールとしてプログラムを作成することがありますが、ほとんどこの2冊を読み返すことで事足りる。後書は、ごく基礎的な例題のみで構成されており、C言語とはどのようなものであるのかを大雑把につかむことができます。表題の通り“1日で”学ぶのは難しいですが、3日もあればじゅうぶんに勉強ができるはず。ちなみに、C言語のバイブルと言われている、C言語をつくられた方の書かれた本「プログラミング言語C」(BW

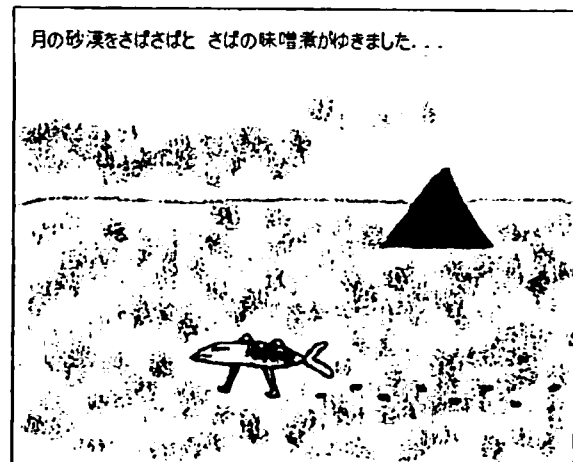
カーニハン、DMリッチ著、共立出版)は有名でして、私も所有しています。ただし3日で挫折し、本棚の飾り物と化しているのですが...

一般文芸書については、最近では「永遠の仔」(天童荒太、幻冬舎)を大変面白く読みましたが、既に読んでいる方も多いと思いますので、次の本を薦めることにします。

「月の砂漠をさばさばと」(北村薫著、新潮社)は、半分絵本のような雰囲気、小さな女の子とその母親との日常生活をほのぼのと描いた、心温まるお話です。読み始めると愉快的気分になり、読み終わると優しく暖かな気持ちになれます。特に、女性にお薦めしたい1冊です。

最後に唐突ではありますが、野球をされている方に「バッティングの正体」「ピッチングの正体」(手塚一志著、ベースボール・マガジン社)を、ぜひ読んでいただきたいと思います。これまでの常識が覆されるに違いありません。

以上、いくつかの参考書・本を紹介させていただきました。少しでも多くの学生が、これらの本に興味を持ち、実際に目を通していただければ幸いに思います。



私の薦めるこの一冊

物質工学科 清野 博史

私の専門は高分子化学であり、この高分子化学は有機化学の知識のもとに成り立っております。すなわち、高分子化学に必要な有機化学の知識がなければ高分子化学を理解・応用することは出来ません。ここで、化学反応というのはプラスとマイナスの科学（化学ではなく）と言っても過言ではないでしょう。このプラスとマイナスはマイナスの電荷を持つ電子によって決められます。よって、反応を理解するためには電子によって理解しなければなりません。ここで、「有機電子論解説、井本稔、東京化学同人」はこれを詳しく説明している一冊です。また、高分子化学を理解できる廉価な専門書に「高分子化学（合成）、上田充ら、宣協社」が挙げられます。この二冊で高分子化学の世界に深く引き込まれることでしょう。

私は宇宙論と量子論にも興味があり、関係の書物をよく読みます。宇宙論と量子論は切り離せないものがあります。無限大の大きさを持つ宇宙を知るためには無限小に近い大きさの素粒子を扱う量子論を知らなければならぬのです。量子論は工学でも応用されています。しかし、それなりに難しいため、専門的に理解するのは困難です。量子論の基礎を学ぶのに最適な書物として「量子論を楽しむ本、佐藤勝彦、PHP研究所」、「素粒子の世界、本間三郎、日本放送出版協会」を薦めます。素粒子はすべての物質の根本をなしております。物質を切り離した工学はありません。是非興味を持ってもらいたいと思います。

☆

☆



☆

☆☆☆☆☆☆

学生による私が薦めるこの一冊 というタイトルで各クラスから寄せられた作品を学年順に紹介します。

## COOLDOWN

(伊達 将範著 電撃文庫刊)

機械工学科 1年 石森啓太

問題児・氷室克樹のクラスに転校生が一人やってきた。朝霧曜子と名乗る少女は、信じられないくらいほどの美貌の持ち主。やはり克樹のクラスメイトで彼に好意を抱いているらしい香月紗香とは対照的な陽性の美しさでクラス全体が彼女の美貌に騒ぐ。しかし、転校当日の全校集会で、曜子は、いきなりその仮面をかなぐり捨てた。ポケットからあるもの——拳銃を引き抜き校長に向かいトリガーを引き絞る……。

何の利益もないように思えるテロによる学校の占領。学校をおおいつくすカーテン。並外れた生命力。克樹に次々と襲いかかる危機。逃亡。真実。ノンストップアクション。テロの目的は？ 正体は？ これから先は、自分の目で確かめてほしい。



## 僕らの七日間戦争

(宗田 理 著 角川文庫)

電気工学科 1年 一条洋和

この本を、僕はぜひおすすめします。題名を聞いたことがある方も少なくないと思います。なぜなら、この本は映画化されているからです。ビデオで見た方もいるかもしれせん。

この本は、中学1年生の主人公グループが、大人たちに戦いを挑むという、痛快でエキサイティングな青春物語です。笑いあり涙あり誘拐ありと3拍子そろっているところがポイントです。なんとといっても映画化されていますから。でも、僕は、映画やビデオで見た方もぜひ小説で読んでほしいと思います。映像では表されなかったことでも小説では見えます。

「中学生が主人公だなんてそんなガキっばい本読んでられるか。」という方、ご安心下さい。この「僕らの～」シリーズは、登場人物が同じで、高校生バージョンや大学生バージョンがあります。この「ぼくら」は日々成長を続けています。どの本を読んでも痛快でエキサイティングだとぼくは思います。

古本屋なら、1冊100円で、この本の本は売られていると思います。ぜひ読んでみて下さい。

## 毛利元就 (内館牧子著 NHK 出版)

建設環境工学科 1年 舟木政志

わたしは歴史小説が好きで、数多くの人物について読んでいます。その中で最も印象に残ったのは、NHK 出版から出ている「毛

利元就」(内館牧子著)である。全3巻に及ぶ長編で、読むのは大変であるが、一読の価値があると思うので、紹介したい。

歴史小説というと、堅苦しい文章で、ズラズラと戦いが並んで……。こんなふうに思っている人も多いだろう。しかし、この物語の著者は、事実だけでなく人物の心境、主人公毛利元就を囲む人々の生き生きとした姿を、独特の語りで描いている。

もともと小さな国の領主だった元就が、大内氏や尼子氏らの大国を破り、中国地方を制する、スケールの大きな筋書き。その中で活躍する人々。特に面白いのは、元就を囲む女性たちである。

## シボレーサマー

(ボブ・グリーン著 TBSブリタニカ)

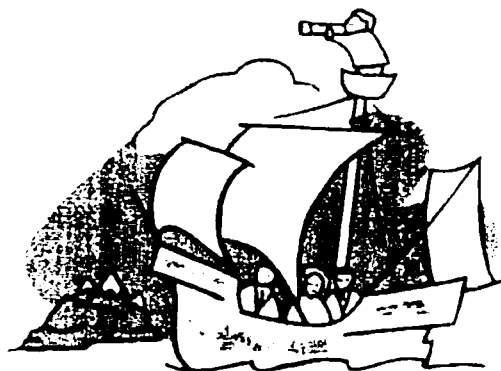
コミュニケーション情報学科 1年  
木梨 香織

私はボブ・グリーンというコラムニストを知っていたわけでも、桜内篤子という翻訳者を知っていたわけでもなかった。ましてや、TBSブリタニカの出版図書が好きだということはありません。出版社で本を選んだりもしないからだ。それなのに、なぜか「シボレーサマー」は私の手の中に収まっていたのである。二〇〇〇字程度のコラムを、七二編あつめて一冊の本にしたものだ。まず目に付いたのは、表紙だった。白地に、青空のカット。私の目をとめるには、それだけで十分だったのだ。

彼のコラムの魅力は、その文章力だけではなく扱う題材によるものかもしれない。ニュースで扱われるような劇的な出来事ではないが、ほんの些細な出来事において私

たちが考えなくてはいけないことばかりだ。自分でも見落としてしまいそうな小さな感情を、うまくすくい上げて、輪郭を整えながら私たちの目に触れさせてくれる。そんな彼の文書が、私は好きだ。

『僕たちが探している答えは、昔から僕たちの目の前にあり、一生懸命探し続けていれば必ず見つかる』と僕は信じている。』——ボブ・グリーンという言葉だ。彼のコラムは、私たちが『答え』を見つけるための道しるべとなるのかもしれない。



## La Petite Philosophie

(佐藤雅彦 著 マガジンハウス)

機械工学科2年 大竹伸幸

皆さんは哲学と聞いてどんなことを思い浮かべますか、ソクラテスやプラトン、アリストテレスなど学校で教わった哲学者を思い出して難しくてよくわからないという人も多いと思います。しかし、実際に哲学というのは、簡単に言うと「いろいろ思ったり考えたりする学問」のことなのです。

この本には日常の何気ないものを見て著者が哲学的にかんがえたことが載っています。例を挙げると、トイレトペーパーから「価値観」について、水槽の金魚から不変について考えたりと、良くそんなことが

考えつくなど感心してしまいます。その内容もどれもわかりやすく思わず、「なるほど。」と納得してしまうものばかりで、自分でもっとそのことについて深く考えてしまうような本です。僕もこの本を読んで哲学に面白さがわかり、いろいろと考えてしまいました。

この本は簡単に哲学の面白さがわかるすばらしい本だと思います。哲学に興味のある人もない人もぜひ一度読んで、哲学の楽しさ・考えることの楽しさに触れてみてはいかがでしょうか。

ポッコちゃん (星 新一著 新潮社)

電気工学科2年 坂本真佑実

この「ポッコちゃん」という本は、短編集で50本のお話が収録されています。その中のひとつに、この本のタイトルになっている「ポッコちゃん」というお話があります。このお話は、とあるバーのマスターが作ったロボット、ポッコちゃんとポッコちゃんに本気で恋をした青年のお話なのですが、結末はそんなにきれいなものではないのです。それは自分で読んで確かめて下さい。このお話以外には、悪魔を捕まえた夫婦の話、台風の後には物をどんなに捨ててもふさがらない穴が現れた村の話などがあります。この本にある話のほとんどは、最後どうなったかは、はっきりと書いてありません。それは読んでいけば想像がつくのですが、意外な結末になることが多くおもしろいです。

この本は短編集なので、長い話を読むのが苦手な人にはオススメです。星 新一の話を読んだことのない人は是非一度読んでみてください。

## 五体不満足 (乙武洋匡著、講談社)

機械工学科3年 永山 勉

ぼくが薦める本は「五体不満足」(乙武洋匡著、講談社発行)です。皆さんは、赤ちゃんが生まれた時に五体満足という言葉が使われるのをしばしば耳にしていると思います。しかし、五体不満足という言葉が耳にしたことはないと思います。ぼくが新聞紙上でその言葉を初めて目にした時、どういう意味だろうかと思いました。さっそく買った本を読んでみると、次のような意味だと納得しました。五体が不満足＝手足が無いということです。

この本の著者である乙武洋匡さんが自分の幼稚園児から大学生までの約20年間の経験を書いたものです。乙武さんは、原因不明の先天性四肢切断という重い障害で、手足がひじ、ひざまでの約半分ほどしかありません。しかし、乙武さんはこの障害を自分にとってプラスの方向へと考えています。

この本はベストセラーとなって何万部も売れています。それですでに読んだことがあるという人も少なくないでしょう。ですから、まだ読んでいないという人はぜひ読んでみてください。

## アルジャーノンに花束を

(ダニエル・キイス著 早川書房)

電気工学科3年 丹野拓海

32歳になっても幼児の知能しかないパン屋の店員チャーリー・ゴードン。そんな彼に夢のような話が舞い込んだ。大学の偉い先生が頭をよくしてくれるというのだ。こ

の申し出に飛びついた彼は、白ネズミのアルジャーノンを競争相手に連日検査を受けることに。やがて、手術により、チャーリーは天才に変貌したが……。超知能を手に入れた青年の愛と憎しみ、喜びと孤独を通して人間の心の真実に迫り、全世界が涙した現代の聖書(バイブル)。

上の文は、僕が紹介したいと思っている本「アルジャーノンに花束を」(ダニエル・キイス著 早川書房 文庫760円)の裏表紙に書かれている解説文そのものであり、プロが書いているだけあって、なかなか上手にまとめられている。この文の後半部分は表現が少々大げさなような気がするが(何でもかんでも“バイブル”と呼ぶのは僕は好きではない)、書いてあることに間違いはない。とてもいい本である。

“いい本”にもいろいろとタイプがあるが、この本はいわば「問題提起」だと僕は思う。つまり、“考えさせる”内容でありながら、答えはどこにもない。ただ、“ヒント”があちらこちらに提示されているだけである。「どうぞ考えてみて下さい。」という事なのだ。今は文庫化されていて、760円で買えますよ。

## 黒い家

(貴志 裕介著 角川ホラー文庫)

物質工学科 3年 雫石多織

しばらく前に流行った小説です。ジャンル分けしたするなら、これはサイコサスペンスでしょうか。この小説は前半は保険金殺人という一般的な題材でかかれています。後半は本格的な猟奇殺人などもあって、かなりドロドロした展開になっています。

殺人者による精神攻撃や主人公の心理描写などにとても優れた作品で、人の凶器だけでホラー、の書ける作者には、つくづく感心してしまった。日常生活内で起こりうるような話だけに迫ってくる雰囲気があり、主人公も理知的であるような「危機的状況」に陥った時、同じような行動を取るかもしれないと思わせる説得力もあります。ともかく、とても面白い作品ですので、是非、深夜に薄暗い部屋でも一人でゆっくりと読んでみてください。面白さも倍増するはずです。

「氷点 上・下」「続 氷点 上・下」  
(三浦綾子著 角川書店)

コミュニケーション情報学科 3年

北野澤頼子

生涯、北海道にから離れることなく、執筆活動を続けた作家、三浦綾子。昭和37年、当時まだ無名だった彼女は、朝日新聞社の懸賞小説に入選を果たした。その後も北海道を舞台とした多くの作品を通して、「原罪」とは何かを訴え続け、人々に感動を与えてきたことは言うまでもないことだろう。

今回は、その作品の一部である「氷点」、「続 氷点」について紹介したいと思う。前者もまた「原罪」をテーマにいた作品であるが、実は、この小説を書いたことによって彼女にある重大な転機が訪れることになるのである。そして、「多くの人を救える小説を書きたい」という強い思いが、罪の許しをテーマとした「続氷点」を作り上げた。

このように「氷点」をはじめとする作品が、今もなお読まれ続けているのは、それ

らがまぎれもなく「癒し」の小説であるからと言っても過言ではないだろう。「癒し系」などという言葉がちょっとしたブームになっている今日、彼女の小説は、時を越えて自らの評価をいっそう輝かせているのではないだろうか。

本の紹介には程遠いが、そういった意味でもぜひ一度、三浦綾子の世界に浸ってみてほしいと思う。

参考図書

三浦綾子著 「氷点 上・下」  
「続 氷点 上・下」 角川書店



帝都探偵物語

(赤城 毅著 中央公論新社)

カッパーノベルス)

電気工学科4年 丹野裕貴

今回、僕が紹介するのは、中央公論新社(カッパーノベルス)から小説家・赤城 毅が出版した「帝都探偵物語」というハードカバー小説です。

普通の人には、「探偵物語」と聞けば、推理小説かミステリー小説を想像するはずですが、この本は本格的な推理もなければ、背筋が冷たくなるようなミステリーもありません。はっきり言って、少々気が抜けるよう

な小説ですが、だからこそどんな好みの人でも読めるし、型にこだわらないからこそおもしろいものでした。

その内容は、題名とおりに探偵が登場して不思議な事件を解決して行くもので、どこの世界でも不変の王道パターンです。時代的には明治ごろ、最初は事件ともいえないようなことでした。依頼人は一人の少女、そして、その少女曰く「父のおかしいので調べてほしい。」心情的かつ財政的理由で調査を始めた探偵ですが、調べを進めていくうちに、この事件が普通の事件と比べておかしいことに気付きはじめて……。

最初の方でも書きましたが、本格的な推理ではないので最初読んだ人は、多少気が抜けるかもしれません。ですが、気が向いたらだまされたと思って、読んでみてください。続きが気になってしかたがなくなるはずです。

龍は眠る (宮部みゆき著、新潮文庫)  
物質工学科 4年 大友博之

題名 龍は眠る 出版社 新潮文庫 著者 宮部みゆき、これに限らず、宮部さんの小説は面白い。ジャンルは推理小説であり、その母体となる事件、誘拐、殺人、脅迫等々はもちろんである。当然だ。それでも読むとどこか心暖まる物語だというのは宮部さんのすばらしい特性であろう。それに彼女の小説にはスキがない。どの登場人物もただ、登場して物語の進行を助け、去っていくような、それだけの登場人物はいない。どの人物もみんなそれぞれの人格を生きており、そのために主人公の邪魔にもなれば、助けにもなる。事件云々そのも

のだけでなくそれによる人のふれあいだけでも、彼女の小説は十分に読む価値があると思う。だから読め。面白いから。事件自体も単純なものではなく、どんでん返しが待っている。いいよね。

以上の理由から、わたしは宮部みゆきさんの小説をすすめる。あ？作者じゃなくて本をすすめるんだらうって？ まあ、そうだけど”龍は眠る”だけでなく、他の小説も読んでいただきたいのだ。損はしないし。「魔術」、「幻想」とか「レベル7」とかも面白いですよ？

### 『猫の地球儀～焔の章・幽の章』

(秋山瑞人著 メディアワークス)

コミュニケーション情報学科 4年

高橋 康孝

私は『猫の地球儀～<sup>焔</sup>の章・<sup>幽</sup>の章』(秋山瑞人・著/メディアワークス・発行)をお薦めします。

この物語には沢山の猫たちが登場します。彼らは電波ヒゲを持ち、電波で話したりロボットを操作したりします。人は登場しません。猫とロボットだけの世界です。

物語は、<sup>焔</sup>と<sup>幽</sup>という二匹を中心にすすみます。それに<sup>楽</sup>という一匹の仔猫と一匹の坊主。トルクと呼ばれる、宇宙を漂う巨大な円筒形の構造物で、彼らは出会います。

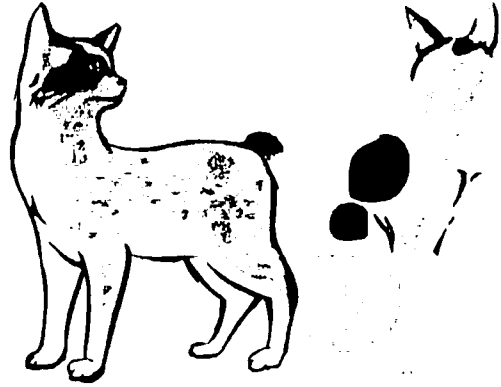
それが物語の始まりです。

面白くて切なくて温かい。最後まで読み終えたあとは、感動のあまり呆然としているかも知れませんし、泣いているかも知れません。ネタバレしそうなので詳しく書けないくらいに、ひとつひとつの言葉に重み



と勢いがあり、すぐに引き込まれます。

この著者の描写力はまるで魔法です。問答無用でありにも鮮明なその「世界」を叩き付けてくるのですから。それでいて、強烈な破壊力を伴ったその「世界」はとても魅力的です。心に残る台詞もたくさん。少しでも時間に余裕があるのなら——いや、時間に余裕がなくても、ぜひ読んで欲しい物語です。猫好きのあなたに、もちろん猫嫌いのあなたにもオススメです。



ますの 柘野浩一短歌集 (柘野浩一著 実業之日本社)

コミュニケーション情報学科5年

芳賀敦子

筆者柘野浩一31才。雑誌ライターであり作詞家であり歌人でもありマンガ評論もするこの人は、とても楽しい。そのくせ私をドキッとさせ、うーんといわせる。一体何者なのかといつも思う。短歌といわれる形で柘野さんは表現をする。口語体で書きたいことを書く。彼自身は自分のことを、

こんなのはフルーツの味のノドあめのようにハンパな才能だから

と、こんなふうに言っているけど、フルーツ味は龍角散やかりん味より効かないかもしれないけれど甘くてなめやすくてけっこうおいしくていいと私は思う。ノドあめだからといってノドに効くだけじゃつまらない。だから、わたしは彼が好きだし、すごくうらやましく思う。

私はたくさんの人にこの人の短歌集を薦めているわけではない。弱っている人に薦めているわけでもない。柘野さんの短歌は癒し系ではないし、そんなことは受け取る側が勝手に決めることだからだ。ただ、こんなふうになにかを見てこんなふうに関心を表現している人があるんだ、ということを知ってほしい。自分の思いを言葉にしてもらえたような、もやもやしたものを言葉という形にってもらえたような、そんな気持ちを味わってほしい。

楽しくてドキッとしてうーんと言いだしたくなるから。どうぞ、ちらっと見てみてください。



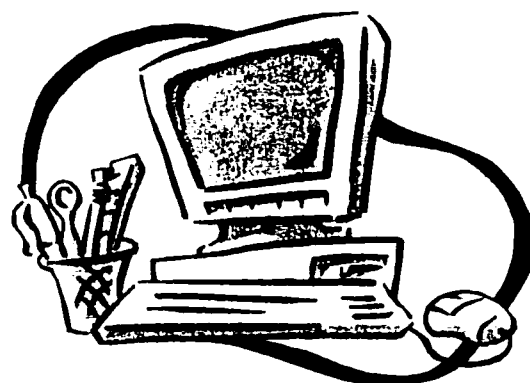
## 世界図書館の時代に

図書館長 阿部妙子

豊かさの本当の意味は何かと尋ねられたら、あなたなら何と答えますか。欧米の図書館で“information rich”とか“information poor”という言葉が行き交うのをよく耳にしました。richというとまずお金持ちを連想し物質面での豊かさを思い浮かべてしまいがちですが、このように「知識が豊富（貧しい）」と人間性や精神面の豊かさを表す場合にも用いられるのです。日常生活や教会などでも頻繁に聞いた表現で、日本語で「心豊かに」とか「本からもらった豊かな時間」などというのと同じだと納得しました。

豊かさの本当の意味を考えると、その質（quality）、とくに“quality of life（生活＝人生の質）”をあらためて確認してみませんか。高専での5年間というのは青春の真っただなか。人生の基盤を築くのもっとも適した時期であり、環境にあります。そこで、わが高専図書館をそのホームベースにするよう提案するものです。

諸外国の学生（高校生・大学生）はじつに多様に、しかも四六時中（つまり夜中も！）図書館を活用します。レポートや宿題の下調べに使うのはほぼ毎日です（米国には24時間、開館している大学図書館もかなりあります）、本を借りていくことなど言うに及びません。勉強ばかりでなく、好きなバイクやファッションの雑誌をながめたり、CDやビデオで音楽や映画を鑑賞したり、ひとりになってただぼーっとして息抜きしたり、デートの待ち合わせ場所にも



利用します。空調のきいた静かで快適なスペースを、自分の自由時間のために好きなように使うわけです。

教室での拘束された環境では得られないゆとりのなかで新しい発見があると、図書館活用の達人たちは話してくれました。役に立つ情報、感動的な物語、助け合える友達——図書館はそのように生活を豊かにしてくれるものとの出会いを約束してくれる場所だということです。

最近になって、この豊かな空間がさらに豊かさを増しました。そう、インターネットとの接続です。図書館のパソコンを使ってアクセスしてみてください。まるでピーターパンや孫悟空（そんごくう）のように世界中の図書館（仮想図書館）を飛び回って、欲しい情報を入手することができます。貴重な学術書、文芸作品、音声、映像、科学遺産などなど、あげていったらきりがありません。質の高い世界図書館の時代の到来——図書館の利用のしかた次第で、一人ひとりの豊かな“quality of life”が実現可能になるのではないのでしょうか。

じつは図書館の膨大な資料のなかから必要な情報を探し出すには



ちょっとしたコツがあります。書庫に入って背文字のタイトルや著者名だけを頼りに探すのでは疲れるだけだと思いませんか。このようなとき情報検索プロとして手伝ってくれる図書館スタッフが司書なのですが、場合によっては人に聞けない調べものもあります。自分の力で資料探しができるようになってこそ図書館利用の楽しさは2倍にも3倍にもなるわけで、在学中にそのノウハウを身につけることは、他の教科の学習と同じように高専生にとって大切な課題なのです。

知識の森の探検は生涯にわたって続きます。情報化社会が進むなかで、卒業して仕事に就けばもっと高度な知識、最新の技術

を学ぶ必要が生じることでしょう。あるいは海外旅行に行くときなど事前に現地の歴史や文化、飲食店やショッピング情報を知りたいという場面もあることでしょう。食品の安全性など日常生活を送る場合でも知識が求められます。仕事、遊び、生活のあらゆる場面で、よく整理された有益な情報は必要です。図書館やインターネットはそれを支えてくれる道具なのです。上手に利用して賢く豊かな人生を過ごすためのちょっとしたコツを、在校中にぜひ身につけることにしましょう。図書館に顔をだしてみてください。すべてはそこから始まります。

## ☆☆☆☆ 図書館の利用状況 ☆☆☆☆

センサーが数えた数字（入館者数、帯出回数など）を整理してみました。ここから見える図書館の一年、1日の様子をご紹介します。

平成11年度、図書館の開館日数は242日（土曜日37日、夏休み期間中の開館日17日を含む）でした。図書室入り口のセンサーが数えた入館者数は3,844名でした。本を借りた人はのべ3,894名で、6,658冊の本が借出されました。このうち午後3時から4時までの1時間に2,700冊が借り出されています。授業や実験が終わった後に割り算をすると1日の来館者数1,600名で、16名が28冊の本を借り、15時から17時までの2時間の帯出数が12冊だった。ということになります。

帯出数の多いクラスや個人の数字を見ると、図書館の“本”の利用状況、利用者の姿が見えてきます。暑い頃ではありますが、少しご想像ください。

今年度から、図書館の閉館時間が正式に午後8時とこれまでより3時間延長されました。一応、探してみようか という軽い気持ちで本、情報のチェックをしてください。案外、いろいろなものを見つけることができるかもしれません。

昨年度（平成11年4月1日から12年3月31日まで）の上位ランキングをご紹介します。表の学年、学科等も昨年度のものです。

表-1 貸出しの多かった図書 上位10冊

順位	回数	書名	著者	出版社(年)など
1	13	現代の有機化学実験	末広唯史ら	技報堂('82)
"	"	ロボット工学ハンドブック	日本ロボット学会	コロナ社('90)
"	"	図解変圧器	坪島茂彦ら	東京電機大('94)
4	12	CNC切削加工のすすめ方	松岡甫篁ら	工業調査会('91)
"	"	機械工作法	佐久間敬三	朝倉書店('88)
7	11	よくわかるフライス盤作業法	フライス加工技術研究会	理工学社('95)
"	"	フライス盤マニュアル		大河出版('80)
"	"	機械工作法	加藤 仁	森北出版('88)
"	"	日常の物理辞典	近角聡信	東京堂出版('94)
"	"	理工系基礎物理学演習	井口泰夫	産業図書('95)
11	10	旋盤作業	為谷誠八	日刊工業新聞('76)
"	"	光物理学	櫛田孝司	共立出版('96)

登録番号で調査したため、同じ本が2冊同時に借りられていてもここでのカウントは1としております。帯出手続きが取られた“本”の数をカウントしております。

表-2 帯出図書数 上位10名

順位	冊数	氏名	学科、学年
1	225	村山英司	工業化学科 5年
2	120	田中美菜子	建設環境工学科 1年
3	91	松橋北斗	機械工学科 3年
4	85	サイドウツザマン	物質工学科 3年
5	63	折笠雄樹	建設環境工学科 1年
6	61	渡部寛之	物質工学科 3年
7	57	萩原 淳	機械工学科 3年
8	56	吉田一弘	機械工学科 3年
9	52	松崎真行	機械工学科 3年
10	47	服部直明	工業化学科 5年

表-3 クラスごとの利用者数(上位5クラス)

順位	クラス	人数	クラス	帯出数
1	機械工学科4年	472	機械工学科3年	783
2	電気工学科3年	279	工業化学科5年	462
3	物質工学科3年	271	電気工学科3年	438
4	機械工学科2年	266	物質工学科3年	424
5	建設環境工学科3年	217	機械工学科2年	373

来館者の増加は望ましいことです。閲覧室にレポートを書くための参考資料が豊富にあるのも良いことです。いろいろな本を探して読んでください。読みたい本がある、読みたい本が入った、必要な資料は図書館にある、図書館にいけばなんとかなるかも などの声が大きくなるように“環境の整備”も進められるでしょう。

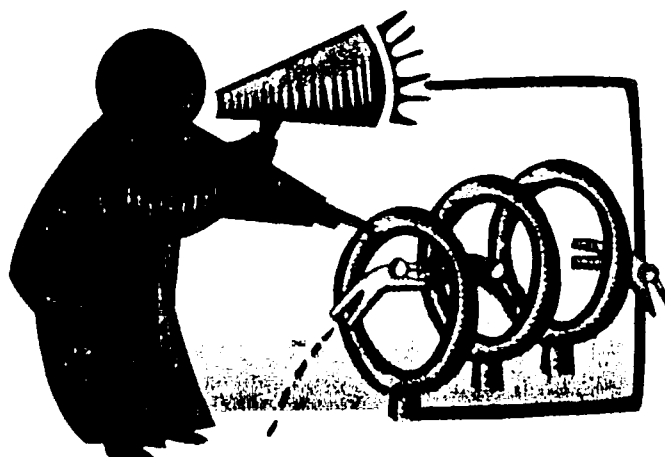
暑いので考えたくないという人は、エアコンの効いた涼しい閲覧室で考えてみませんか。いろいろなことを。

でもね。騒いだり、走り回ったりなどは、他の利用者から見てもとても迷惑な存在になりますので、くれぐれもご注意下さい。スナック菓子やジュースなどを持ち込んでも見つからなければいいとか、注意されると、実はいろいろ都合があつてという言い訳をするというのはマナーを軽く見た行為です。みんなの図書館であることをお忘れなく。

(もっともこれは、一部の人への注意なんですけれど)

図書館の閲覧室、書庫では、“静かに”必要な情報を賢くせつせと集めましょう。

それから、“飲食厳禁”となっていることをお忘れなく。



夏休み中には、検索用の端末とコピー機が設置される予定です。

よりよい図書館にするために  
ご協力ください。

## お知らせ

### 1. 夏季休業中の図書館の利用について

開館期間 7月21日(金)から8月4日(金)  
8月21日(火)～夏季休業終了日(8月27日)  
土、日は閉館です。

開館時間 午前8時30分～17時まで



#### 特別貸し出し

手続期間 7月10日(月)～夏季休業期間  
限度冊数 5冊まで  
貸出期間 夏季休業期間



☆「臨時開館日」以外は、所蔵と書の点検整理のため、閉館します。

### 2. 感想文コンクールについて

今年度も、「感想文等コンクール」を下記の要領で実施します。

読後の感想文、読んだ本の紹介、読んだ本の評論など、自分にあったスタイルで、読んで感動した本について熱く書いてください。多数の応募を待っています。

#### 記

1. 形式 1600字程度の感想文、本の紹介文、本に対する表論文などをテキスト形式で提出して下さい。
2. 募集部門 低学年と高学年の2部門とします。  
低学年(1～3年対象) 高学年(4, 5年対象)
3. 締め切り 平成12年11月末日
4. 賞品 優秀作品には図書券を贈るとともにビブリアに掲載します。
5. 提出方法  
電子メール [tosyo@fukushima-nct.ac.jp](mailto:tosyo@fukushima-nct.ac.jp) (図書係)へ送って下さい。  
フロッピー プリントを1部つけて図書館事務室に提出して下さい。

